

朝日新聞は素直に謝罪すべき

JJ1SXA/池

朝日新聞が8月5日付の朝刊に、「慰安婦問題 どう伝えたか 読者の疑問に答えます」という二面ぶち抜きの記事を載せた。

「慰安婦問題は朝日新聞の捏造だ」といういわれなき批判が起きています、だからこの特集記事を書いた、というような説明をしている、何が、いわれなき批判だ。

一連の「慰安婦問題報道」について、朝鮮人慰安婦の「挺身隊との混同」と「済州島での連行」の記事については取材や報道の誤りを認め、「裏付け取材が不十分だった点は反省します」としながら、「強制連行」と「日本軍関与」の記事、さらに「キーセン」として売られていた朝鮮人女性への植村隆元記者の「慰安婦・初の証言」のインタビュー記事については、基本的にそれぞれ誤りを認めていない。

「済州島での連行」の記事は、ようやく誤りと認めたが、「私の戦争犯罪・朝鮮人強制連行」という本を出版した吉田清治の嘘に飛びつき、30 数年間にわたって、この嘘に基づいた従軍慰安婦強制連行キャンペーンを維持し、日本と日本国民の名誉を傷つけ続けた罪をどう償うのか？

これまで自虐史観を散々煽ってきた朝日新聞は、「虚報」によって、後世の日本人たちに対する重大な悪影響を与えたのだから、反省するなら謝罪が必要だ、素直に謝罪すべきだ、訂正はしたが、明確な謝罪は避けている、それどころか随所に責任転嫁が垣間見え、開き直りの部分が多い、まあ謝って済む話では無いが…

この、朝日のキャンペーンに圧力を受けて、十分な調査も行わずに、当時の加藤紘一官房長官は、「お詫びと反省」の談話を発表し、宮沢喜一首相は日韓首脳会談で謝罪し、河野洋平官房長官は慰安婦強制連行を認めた談話を発表している、追い討ちをかけるように、村山富一首相が村山談話を発した、朝日共々その罪は大きい。

広島被爆 69 年に当たる 8 月 6 日付夕刊の「素粒子」に、…「においまで覚えてい」と広島体験者。空一面の熱線で焼けた肉の臭いか、国民をだまし続けた政府の腐臭か。…とあった、この言葉を借りよう、国民を騙し続けた朝日の腐臭は、永遠に消えないであろう、朝日は肝に銘じよ。

NHK の靱井会長就任記者会見で、従軍慰安婦問題について「答えたくない」と拒否する靱井氏に執拗に迫ったのは朝日の記者だ、そして個人的見解という事で話させ、後で、個人的見解は認めないと、だまし討ちしたのだ、これが朝日の体質、驕り以外の何ものでも無い、そして、朝日を初め、反日メディアは紙面やテレビ番組を使い、また、民主党議員たちは国会質問で、まるで鬼の首でも取ったように靱井会長たたきを繰り返した、今まで、朝日による捏造記事の尻馬に乗って軽率な言動を繰り返して来た人たちは今回の検証記事に対してきちんと意見を表明すべきだ。「…おごれる人も久しからず…ひとへに風の前の塵に同じ…」(平家物語より) (8.Aug,2014 記)